



大館市の将来像は...

〈第1回〉

昭和65年を目指した 後期基本計画がスタート

当市は、昭和五十六年に「大館市総合開発計画」を定め、五つの将来都市像の実現に向けて各種事業を展開してきました。そして六十年度で前期の計画が終了したため、市民の皆さんのご参加（市民懇談会）を得て、六十一年度から六十五年までの後期基本計画を策定しました。今年度からは、この計画に基づいて生活環境の整備や産業の振興、福祉・教育の充実などを積極的に進めていきます。今号から五回にわたって、後期基本計画の概要をお伝えします。

▽65年の予想人口75,000人

これからの人口や世帯数は、人口動態の現状からすれば停滞傾向にありますが、高速交通体系の整備や都市整備を進めることにより就業機会も増加し、昭和六十五年には人口七万五千人、二万三千四百三十八世帯になることが予想されます。

▽就業人口は37,422人

十五歳以上の人口に占める就業人口の割合は、五十五年の六一・八%から六十五年の六一%へとわずかな低下に止まると見通しです。これを産業別に見ると、第一次産業（農林水産業）は、複合経営や生産団地を育成強化し、農業後継者づくりに努めることで、農業

年齢別人口と就業人口の見通し

区分	次年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	昭和65年
人	総人口	72,958	71,828	72,478	71,798	75,000
	0~14歳	18,066 (24.8%)	16,645 (23.2%)	15,535 (21.4%)	14,294 (19.9%)	13,652 (18.2%)
	15~64歳	50,178 (68.8%)	49,440 (68.8%)	49,807 (68.7%)	49,064 (68.3%)	50,842 (67.8%)
	65歳以上	4,714 (6.4%)	5,740 (8.0%)	7,128 (9.9%)	8,436 (11.8%)	10,506 (14.0%)
就業人口	総世帯数(世帯)	18,914	19,980	20,858	21,317	23,438
	第1次産業	9,418	6,939	5,339	4,970	4,491
	第2次産業	9,526	9,313	10,065	10,224	11,114
	第3次産業	16,787	17,993	19,746	20,061	21,817
	計	35,756	34,265	35,162	35,255	37,422

※総人口には年齢不詳を含む

就業者の減少を極力防止することができず、第二次産業（鉱工業）では、鉱業への金属鉱業基本法の制定や地場産業の育成、企業誘致を全的に取り組むことによって五十五年に比べ千四百九十九人の増が見込まれます。第三次産業（商業）は、商店街の近代化や消費者指向の多様化、さらに広域商業の進展などによって労働力需要が大幅に喚起され、六十五年には二万千八百七十七人になることが予想されます。

健康で明るい

福祉社会の

実現のために

市民が健康で明るい社会生活を送れるようにすることは、すべての施策に優先する行政の基本的課題です。このため市民の健康保持のための総合的な地域保健活動や心のふれあいと助けあいを基調とした福祉の風土づくり、さらに自主的なコミュニケーション活動の促進などの施策を進めていきます。

◇健康の増進

保健センターをヘルス・キーステーションとし、保健データ活用による総合保健指導を推進します。

医師会や保健所とは緊密な連携をとりながら地域保健活動を進めます。

◇疾病の予防

成人病の予防対策、早期発見、早期治療に向けて市民皆検診運動を進めます。特に幅広い検診体制とするために集団方式だけでなく、医療機関における検診方式も積極的に展開します。

◇地域医療と市立総合病院

麻酔科の増設を図ります。最新医療機器導入と医療スタッフを充実します。休日、夜間救急体制の確立と医療体系を充実するため、近接医療機関及び医師会などによる相互

市長の対話ノート

善隣友好



No.133

諸悪の根源は、巨額の貿易収支赤字だといわれている今日の円高—円高によって起こる輸出不振—輸出不振によって起こる産業不振—そして不況。「日本人は自分さえよければ、ほかはどうなってもよい」と思っている。他人が潤ってこそ自分も潤うことを知らない」と海外から厳しく批判されています。自分では決してそうではないと思っても、外から見ればそうだというから仕方ありません。いや仕方ないといって放置できませんから、態度で示さなければならぬ時に来ているのです。

昨年「日中友好親善の集い」を開催し、親交を深めるとともに、継続発展を誓い合いました。今年も形を変えて、中国を正しく、幅広く知ろうと考え、中国映画を見る集いや、中国の暮らしパネル展、中国の子供たちの作品展などを開くことにしました。またこれとは別に、当市からは「秋田杉」を国際交流の外交官に仕立てるべく、その方法を検討しているところですが、

このような交流を重ねることこそが外から日本を正しく知っていただく方法ではないでしょうか。その上に貿易を乗せなければ出口のない袋小路になることとなります。

伊山健治

◇お詫び◇ 広報6月1日号で次のとおり誤りがありましたので、お詫びいたします。
2ページ「市長の対話ノート」の見出し中「水の還境」→「水の環境」
5ページ「子供たちを健やかに育てるために」の見出し中「認耐力を育てよう」→「忍耐力を育てよう」